

平成 25 年度
全国公立大学学生大会
LINK topos
(公立大学学長会議同時開催)

期日 平成 25 年 10 月 12 日 (土) ~ 13 日 (日)

会場 岩手県立大学 (岩手県岩手郡滝沢村滝沢字巢子 152-52)



公立大学”学生×教員×職員”シンポジウム

LINK topos

~被災地支援・地域防災~

公立大学学生ネットワーク

目次

1. 本事業の活動背景と目的.....	4
1.1. 公立大学学生ネットワークの誕生.....	4
1.2. 公立大学学生ネットワークのミッション.....	4
1.3. 公立大学学生ネットワークと公立大学協会の動き.....	4
1.4. 全国公立大学学生大会 LINK topos の目的.....	4
2. 全国公立大学学生大会・公立大学学長会議プログラム.....	6
3. 活動内容と成果.....	7
3.1. ポスターセッション.....	7
3.2. ワークショップー日目.....	7
3.3. 特別シンポジウム.....	7
3.4. 情報交換会.....	8
3.5. ワークショップ二日目.....	8
4. 総括・謝辞.....	10
5. (付録) 岩手県立大学 会場利用方法 (2階).....	11
6. (付録) ワークショップ、ポスターセッション会場レイアウト (体育棟).....	12
7. (付録) 参加者名簿.....	13
8. (付録) 被災地視察行程表 (2号車).....	16
9. (付録) 公立大学学生ネットワーク支援に関する作業部会について.....	17
10. (付録) 学生セッション.....	18
10.1. 1日目.....	18
10.2. 2日目.....	20
11. (付録) アクションプランタイトル及び概要.....	21
12. (付録) アクションプラン写真.....	22
13. (付録) 合同シンポジウム発表グループのアクションプラン詳細.....	24
13.1. グループ1 : U・P GO GO PROJECT.....	24
13.2. グループ4 : まちは僕らの庭プロジェクト.....	24
13.3. グループ9 : おなかまプロジェクト.....	24
13.4. グループ11 : 学生による地域祭.....	24
14. (付録) 公立大学学生ネットワークの新幹部 (平成26年度).....	25
14.1. 北海道・東北地区 (暫定).....	25
14.2. 関東・甲信越地区.....	25
14.3. 東海・北陸地区.....	25
14.4. 近畿地区.....	25
14.5. 中国・四国地区.....	25

14.6. 九州・沖縄地区	25
15. (付録) 公立大学学生ネットワークの今後の動き	26
15.1. 情報共有方法	26
15.2. 学内 LINK topos の開催促進	26
15.3. LINK topos を応援する会 (OBOG 会) の設立	26
15.4. 口座開設	26

要旨

平成 25 年 10 月 12 日 (土)、13 日 (日) に岩手県立大学にて全国公立大学学生大会～LINK topos～(公立大学学長会議合同開催)が開催された。34 公立大学校から 81 名の大学生がワークショップ(テーマ「大学/学生と地域コミュニティの協働をデザインする」)を行い、14 つのアクションプランを作成した。参加した学生は地域コミュニティの中核的存在としての大学の可能性について学長、教員、職員と活発に意見交換を行った。大学生、学長、教員、職員が地域の課題解決、未来創造に対し協働して取り組むという気運が高まった。

1. 本事業の活動背景と目的

1.1. 公立大学学生ネットワークの誕生

平成 23 年 3 月 11 日の東日本大震災の発生を機に、全国の公立大学では被災地支援・地域防災を目的とした学生団体組織が数多く誕生した。これらの団体の学生が復興支援ボランティアに取り組み、その学修成果を地域活動へ生かすなど実践の積み重ねが行われている。それを受け、平成 24 年 11 月 8 日に公立大学学長会議特別シンポジウム及びワークショップ¹が開催された。ワークショップでは「公立大学学生による被災地支援と地域防災活動」というテーマで開催され、公立大学 24 校 45 名の学生が活発な議論を行った。その後、継続して課題の解決に取り組む仕組みを作るべく、参加した学生が主体的に繋がり、公立大学学生ネットワーク²（以下、学生ネットワーク）が構築された。学生ネットワークは、主に口コミにより有志を募り、各地域で同志を集め、全国大会開催のために会議を重ねる等、全国の学生との繋がりを徐々に構築していった。そして一人の声掛けから始まった学生ネットワークは、50 名（2013 年 10 月時点）を超えるボランティアベースの全国規模のネットワークとなった。

1.2. 公立大学学生ネットワークのミッション

地域には、その地域の環境や人といった多様性に起因する課題が多く存在する。学生ネットワークは、志や温かみのあるボランティアチックなつながりを持ち、地域に存在する数多くの課題に対し、「学生のまなざし」を生かし、問題解決を図りたいと願う学生のネットワークである。私たちは、大学という組織には、行動力や高い志を持った学生をはじめ、専門力を持つ教員、計画実行力を持つ職員が存在し、三者が力を合わせ協働することで、大学の組織力は最大化されると考えている。特に学生は、大学や地域の多様な主体(教職員・住民・行政・企業など)との垣根が低く、多様な主体を互いに結びつける存在として地域に貢献できると考えている。「無数の志ある温かい協働により生き活きた地域」を創ることが私たちの使命である。

1.3. 公立大学学生ネットワークと公立大学協会の動き

そこで、公立大学学生ネットワークでは、その垣根の低い協働の可能性を示すべく、全国の公立大学の学生・教員・職員からなる全国大会の開催を計画した。これに対し、公立大学協会により、学生を支援する作業部会³が新設され、学生の活動を継続的に支援・促進する仕組みが構築された。公立大学協会のこの動きにより、支援を受けた公立大学学生ネットワークは、全国大会開催への動きを加速させることになったのである。

1.4. 全国公立大学学生大会 LINK topos の目的

全国の公立大学の学生・教員・職員が一堂に集まる「全国公立大学学生大会 LINK topos 公立大学学長会議合同開催⁴（以下、全国大会）」では、テーマを被災地支援・地域防災から「大学／学生と地域コミュニティの協働をデザインする」へと広げ、多くの大学が関われるテーマを設定した。これにより、

¹ 平成 24 年度学長会議開催報告、公立大学協会、(<http://www.kodaikyo.org/?p=1871>)

² 公立大学学生ネットワーク、(<http://311nc.wordpress.com>)

³ 公立大学学生ネットワーク支援に関する作業部会について、本報告書 p17

⁴ 平成 25 年度公立大学学長会議特別シンポジウム「大学/学生と地域コミュニティの協働をデザインする」、公立大学協会、(<http://www.kodaikyo.org/?p=3509>)

地域ごとに異なる活動環境があることがわかり、公立大学の地域に根ざした取り組みの重要性を知ることができるとともに、地域の違いはあるものの、全国で共通の課題もあることを認識することができる考えた。全国の公立大学の学生・教職員が協力して、それぞれの地域の未来を考えることは公立大学がCOC拠点である上でも重要なことである。

2. 全国公立大学学生大会・公立大学学長会議プログラム

10月12日（土）

	全国公立大学学生大会	公立大学学長会議
9:00～	受付、ポスターセッション準備	
10:00～ 11:40	顔合わせ（体育棟） 自己紹介、アイスブレイク等	全体会議（講堂） ・挨拶 中村 慶久 副会長 ・報告 木苗 直秀 会長 ・行政報告 里見 朋香 大学振興課長 ・ポスターセッションアピール
11:40～ 12:20	昼食（食堂2階）	
12:20～ 13:00	ポスターセッション（体育棟） 学長会議出席の先生方が、各大学のポスター掲示ブースを自由に巡回します。	
13:00～ 14:40	ワークショップ（講堂） 「学生が考える地域の未来」	委員会拡大会議（共通講義棟）
15:00～ 17:00	特別シンポジウム（講堂） 「大学／学生と地域コミュニティの協働をデザインする」 －学生の地域（復興支援・防災）活動と、COCがもたらす大学教育の新たな展開－ 第1部 学生ワークショップ成果発表 司会 佐々木 民夫 岩手県立大学高等教育推進センター長 第2部 パネルディスカッション パネリスト 里見 朋香 文部科学省高等教育局大学振興課長 木苗 直秀 静岡県立大学長（一般社団法人公立大学協会会長） 蓮見 孝 札幌市立大学長 伊藤 忠通 奈良県立大学長 村嶋 幸代 大分県立看護科学大学長 司会 中村 慶久 岩手県立大学長（一般社団法人公立大学協会副会長）	
17:30～ 19:30	情報交換会（食堂3階）	

10月13日（日）

ワークショップ		被災地視察（希望者）	
8:30	岩手山青少年交流の家玄関前集合	6:55	岩手山青少年交流の家玄関前集合
8:40	岩手山青少年交流の家出発	7:00	岩手山青少年交流の家出発
9:00～ 12:00	ワークショップ（体育棟） 「今後の学生ネットワーク活動」	～	宮古市田老（防潮堤等） 山田町・大槌町（車窓視察） 釜石市・遠野市経由
12:30～ 13:00	貸切バスで盛岡駅へ移動、解散	18:00	盛岡駅到着、解散

3. 活動内容と成果

3.1. ポスターセッション

学生セッションのポスタープレゼンテーションでは、参加学生⁵が自分たちの地域でのボランティア活動や研究活動の成果や現状、課題等をまとめたポスターを会場⁶全体に展開した。学長をはじめとする教職員は、展示されたポスターを自由に見て回ることができ、普段知り得ない全国各地域で行っている学生の活動の詳細を一挙に知ることができた。学生も、普段話す機会の無い自分の大学の学長と、さらに他大学の学長・教職員・学生に対して、自分たちの活動の工夫や思い入れを語ることができた。大学を越え、役職を越え、学長や教職員と学生が顔を合わせて熱い会話を交わすことができたことにより、学長にとっても、学生にとっても新たな気付きを得る場が形成されていたと言える。

3.2. ワークショップー日目

学生は、テーマを「学生が考える地域の未来」としたワークショップを行った。まず大学、学年を異にする5人～6人の計14グループを形成し、アイスブレイクを行った。今回のアイスブレイクは、隣の人の名前を呼び合いながら、手でバトンを回すようにタッチし、往復一週をするタイムを競った。タイム計測は数回行うが、前回のタイムを必ず上回るように求めた。学生は目標タイムが上がるにつれ、集中力と結束力を高めた。結果、目標を設定することでチーム内の共通理解が進み、結束力が高まること、そして高い目標を設定し、遮二無二達成しようとする姿勢の大切さと、高い目標を成し遂げたときの達成感の高さを感じるようになった。

次にブレインストーミングの方法を用いて、こんな地域にしたいという未来像を各々が付箋に書き出した。そして、他人の付箋に書かれた未来像を見ながら、カテゴリ分けを行い、共通の論点を模索した。分けたカテゴリの中から重要だと思ふ小テーマを設定、グループでの論点を明確にし、さらにその未来像を実現するためには、どんな課題があるか、課題を解決する方法を議論していった。議論のヒントとして、目的の再確認や5W1Hで議論をまとめる方法、さらに相手の意見を肯定し、さらに改善する意見の提案方法を示した。最終的に14グループ全てが目指すべき地域の未来像に対して、アクションプランを設定することができた。14個のアクションプラン⁷は、参加者一人一票の投票により選考を行い、上位4グループが午後のシンポジウムでの発表のチャンスを獲得した。

ここで学生は、活動する地域や大学、専攻する学問領域や学年を異にする他人との協働により、普段できない気づきや学びを経験し、多様な主体と協働する姿勢の大切さと、その方法の一例を実感することができた。

3.3. 特別シンポジウム

午前のワークショップで発表のチャンスを得た4グループ⁸が、学長関係者約90名の前でアクションプランについて、その目的と方法、そこに含まれる工夫や狙い、想いを発表し、協働することの大切さと可能性を実感したことを伝えた。その後、三大学の学長から各大学のCOCへの取り組みについて講演

⁵ 参加者名簿、本報告書 p13

⁶ ワークショップ、ポスターセッション会場レイアウト（体育棟）、本報告書 p12

⁷ アクションプランタイトル及び概要、本報告書 p21

⁸ 合同シンポジウム発表グループのアクションプラン詳細、本報告書 p24

があり、学生は、大学として、地域にどう貢献しているのか、どう貢献していこうとしているのかを学んだ。学生も大学も、地域に貢献するという共通の目的を持っていることを知り、協働の可能性があるという認識を高める結果となった。

3.4. 情報交換会

ここでは、食事をしながらシンポジウムやポスターセッションでは話せなかったことやさらに踏み込んだ話をすることができた。岩手の名物、まめぶ汁や盛岡冷麺が振る舞われたり、さんさ踊りが披露されたりと楽しい時間が流れ、参加者のつかの間の休息となった。ここで木苗学長より公立大学学生ネットワークの日野浦と荒木に今後のネットワークの継続性とビジョン⁹⁾について言及があった。それに対し、日野浦は、ネットワーク継続のために各大学から先輩と後輩の学生二名を選出していることに加え、荒木を次期代表に据えることを発表し、荒木もこれに応じ、来年度の抱負を語った。さらに、日野浦は卒業生の会（以下、OBOG会）の発足も視野に入れていることを語った。

3.5. ワークショップ二日目

一日目のアクションプランについて、各参加者が地域に帰ってからも実行できるようにするためにさらにワークショップを行った。他のグループからも広く意見を取り入れ、ヒントを得ながらプランはきめ細かくされていった。

最後にまとめとして、本大会を振り返って数名の学生が、感想と公立大学学生ネットワークの今後の在り方について意見を述べた。以下に内容を示す。

・埼玉県立大学 仲田 海人さん

地域の課題は地域によって様々であり、今回のように（立案した）イベントを各地域で実現させ、理想通りに成功させることは難しいと思う。しかし方法は、真似ができる。ここ（ワークショップ）で話合った方法を、各地域に持ち帰って工夫することは、意味があると思う。なので、LINK topos の HP や Facebook¹⁰⁾などで、こういう事をこうしたから実現できたというような（ノウハウや）方法、自分たちの地域に応用できるような情報を共有する媒体を創るのはどうか。

・山梨県立大学 野上 舞穂さん

LINK topos を（今後にも）繋げ、全国の繋がりを保っていくのは、今回集まったメンバーを中心に行っていきたいと思う。地域に帰ってやることを考えると、地域によって課題は違うことがわかる。私の大学では看護・福祉・国際（学部）が集まっている。昨日の奈良県立大学の（学長さん）のお話にもあったように、学部を超えてこのような集まり（学内の LINK topos¹¹⁾）を開いて、それぞれが思っている「どう地域に貢献したら良いか」「どういう未来を創っていくか」を話し合い、地域に合ったアクションプランを考え実行する、まさにこのような（LINK topos で行った）方法を広げていくことで地域に合った課題解決が行われ、全国に広がっていくのではないかと感じました。

・高知県立大学 大窪 悠太さん

⁹ 公立大学学生ネットワークの今後の動き，本報告書 p26

¹⁰ 情報共有方法，本報告書 p26

¹¹ 学内 LINK topos の開催促進，本報告書 p26

自分たちのグループではアクションプランをカリキュラムに落とし込むことを話し合った。地域への貢献は公立大学が他の大学との差別化を図れる点であり、公立大学の特色として強みにもなると思います。そういうこと（地域への貢献、地域での活動）をしたいと思っている人（受験生）が意味を持って公立大学に入ってくることも増えるのではないかと思います。ここだけで終わりにせず、広めていきたいなと思いました。

・神戸市看護大学 林 優名さん

約半年、公立大学学生ネットワークのメンバーとして運営に関わらせてもらい、日野浦さんのアドバイスのもと公立大学の意義について考えてきて、学長さんや教職員さんと話す機会も増えました。私の大学は看護大学で、健康教室等で地域の方々と信頼関係を築いて活動を行っています。しかし、その活動（や意義[公立大学の意義]）を学生が気付いているかというと、そうではない。学長方もなかなか忙しく、伝えきれていないと話していただきました。ですが、看護職者として接するのは地域の人であり、地域に帰っていき、入院患者さんも地域の人なので、本当に地域のその人らしさまで理解しようとするなら、教職員さんが行っている健康教室等に学生も参加した方がいい、参加したいと声を上げていました。そして今年私の大学がCOC事業の申請をし、来年度からさらに学生が地域の方と関わる機会が増えました。ですので、私が学長や先生方にあげた声は無駄ではないと思いますし、先生方が考えていた新カリキュラムに学生の声も加わることでさらに大学での学びが充実したものになると思います。ですので、せっかく今回学長の方々と繋がれたことですし、地域に貢献するという同じフィールドでお話ができるように学生からもっと声を上げてほしいなと思います。

・秋田県立大学 大島 克征さん

昨年の11月の学長会議特別シンポジウムで、(大阪府立大学の)日野浦さんや荒木さんから防災マニュアルを作ったというお話を聞き、僕も作りたいなと思って、どうやって作ったのかを教えてくださいました。そして(実際に自分の大学で)作ってきました。これは繋がりがあったからこそで、昨年荒木さんが自慢していたことを今回は僕たちが自慢しにきました。これを作る時に思ったのが、これは自分だけでは作れないということです。まず大学の人(防災担当者)にどんな物を作ってほしいか尋ね、市の防災方針に乗っ取らないといけないため市役所等に聞きにいき、春休みをかけてようやく作ることができました。つくり方は(LINK toposの)HPなどに載せるので、作りたい方は参考にしてください。

注* ()内は言葉を補っている。

以上のように、参加学生は本大会にそれぞれの意義を見だし、協働することの大切さや繋がりが生み出すパワーや可能性を感じ、今後も公立大学学生ネットワークの継続と発展を促進して、地域に貢献していこうという意志を示すこととなった。

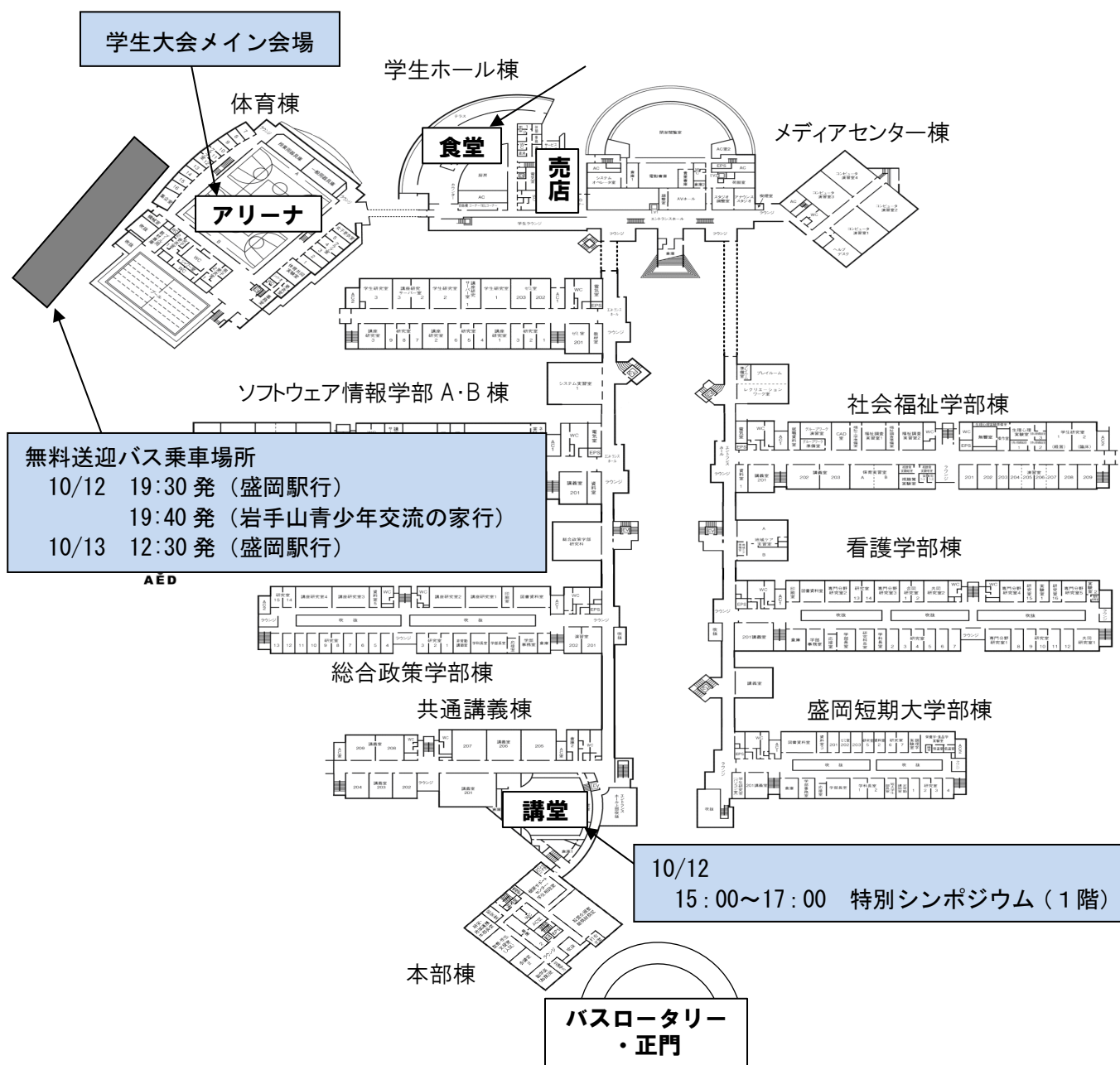
4. 総括・謝辞

まずは盛会のうちに終えることができ、ほっと胸を撫で下ろしました。特に多様な参加者にとって、それぞれの気づきを得ることができた点で非常に有意義な大会となったと言えるでしょう。学生の感想を聞くと、全国の学生や学長との繋がりが出来たこと、特に学生同士は、地域に帰ってからも何かを協働しようという継続的な繋がりが出来たことを喜んでいきます。また、学長方を始めとして、学生同士であろうとも、協働するには相手との相互理解が必要なことを認識できたと聞いています。14個のアクションプランは地域の課題解決、未来創造にどれも大切な要素を含んでおります。学生は地域に帰ってからも策定したアクションプランを深めることや、ポスターセッションでの他大学の発表を参考に、活動を深化させていくことが望まれます。公立大学学生ネットワークは、このような学生の垣根のない協働を支援・深化させ、地域の未来創造に貢献するために、このような協働の場（LINK topos 等）をゆっくりと確実に拓げていきたいと考えています。理念は「地域を架ける 想いを繋ぐ 絆を生み出す発火点」とし、公立大学の新たな価値、新たなシステムとして、学生の澄んだまなざしを、大学、そして地域に活かすネットワークとして存在していきたいと考えています。

最後になりましたが、本大会を支えてくださった皆様には、心より厚く厚く御礼申し上げます。公立大学が変われば国立、私立、そして大学が変わり、大学が変われば教育が、教育が変われば日本が、日本が変われば世界が変わると信じております。皆様と協働して世界を良くしていきたいと強く決心しております。どうか今後とも、公立大学学生ネットワークへの温かいご支援、並びにご指導ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。

大阪府立大学修士二年
公立大学学生ネットワーク 初代代表
日野浦 弘樹

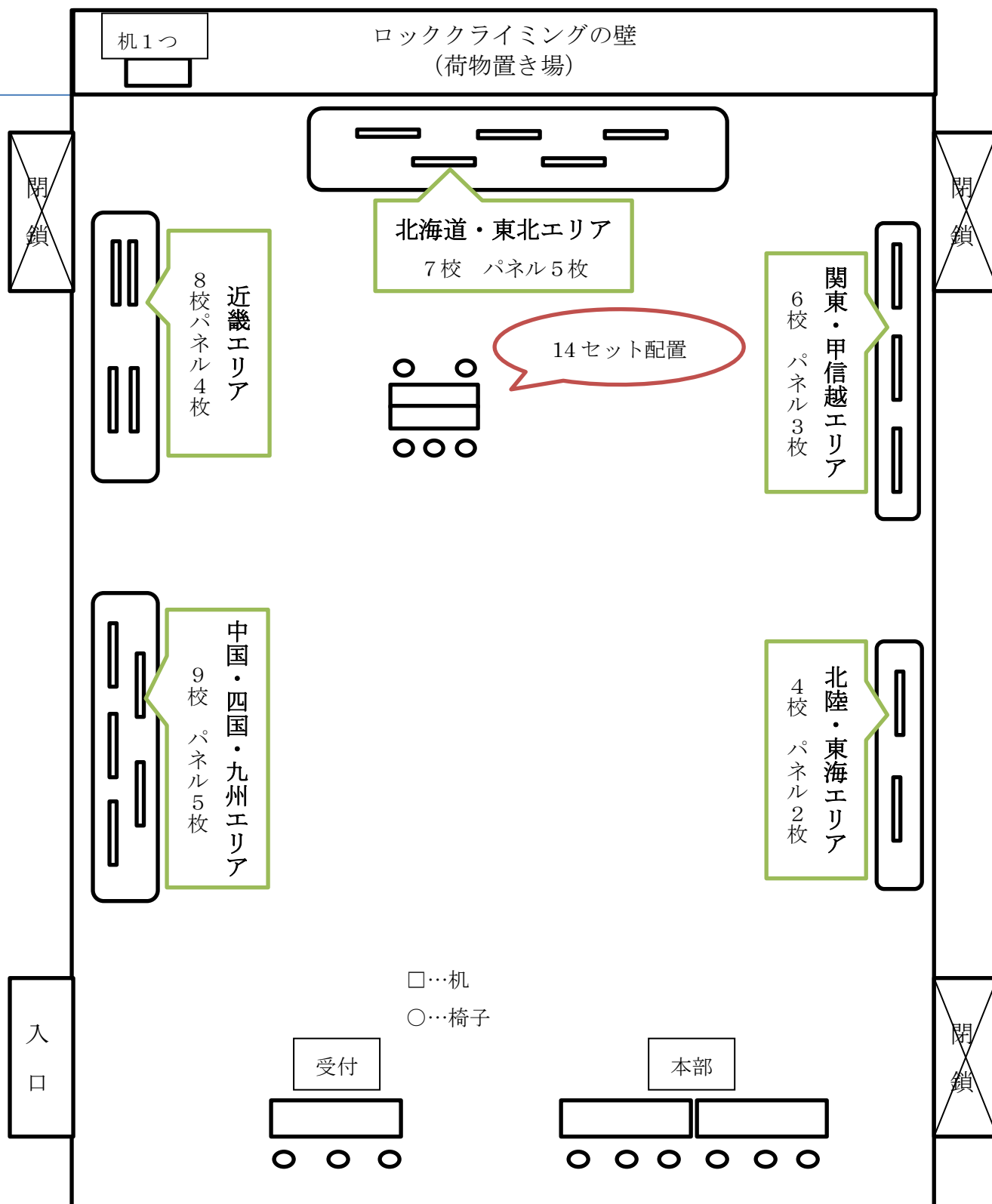
5. (付録) 岩手県立大学 会場利用方法 (2階)



【注意事項】

- 立入制限等について
震災特別選抜入試のため、次のとおり立入りを禁止します。13日は屋外でも静粛にしてください。
10月12日：学部棟立入禁止　10月13日：体育棟以外の全施設立入禁止
- 貴重品の管理について
貴重品は個人の責任において厳重に管理してください。
- 体育棟内の利用について
体育棟内は土足禁止です。シートを敷設した場所以外では、スリッパに履き替えてください。
- 喫煙について
本学は、敷地内全面禁煙としていますので、ご協力ください。
- 地震等の災害発生時の対応について
 - ・ 地震が発生した場合には、天井、壁、窓等からの落下物に注意しながら、揺れが収まるまでその場でお待ちください。
 - ・ 避難が必要となった場合には緊急放送により指示します。指示に従い、落ち着いて避難してください。
 - ・ 避難後の集合場所は、「西側大駐車場」又は「学生ホール棟裏手の周回路付近」です。

6. (付録) ワークショップ、ポスターセッション会場レイアウト (体育棟)



7. (付録) 参加者名簿

(テーマ1：地域貢献活動　テーマ2：地域に関する研究活動　テーマ3：被災地支援・地域防災活動)
テーマ

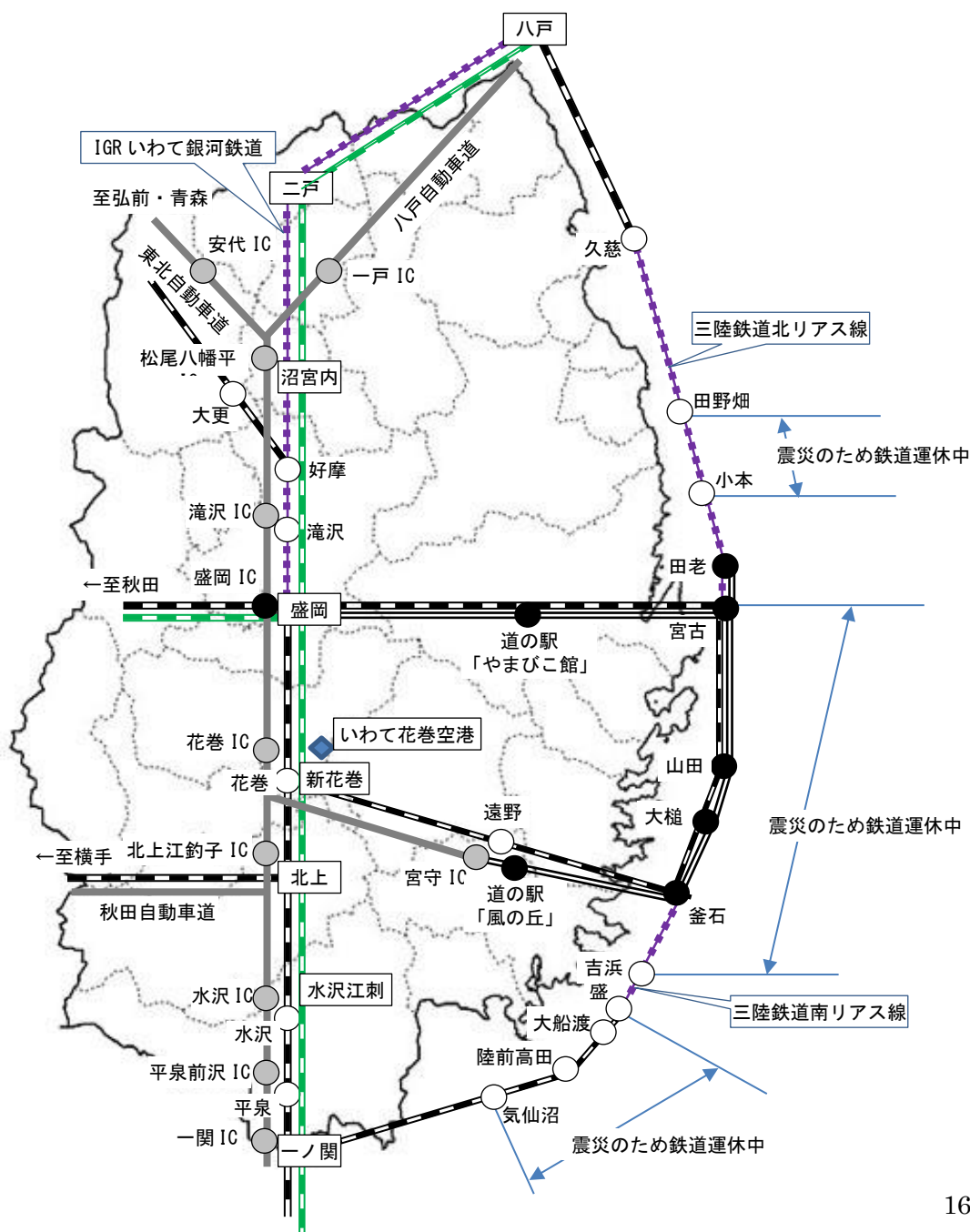
※ Web掲載版では省略

当日参加者

- ・オハイオ大学 スキャラン先生御一行
- ・外務省 「絆プロジェクト」参加者

8. (付録) 被災地視察行程表 (2号車)

6:55	集合 (玄関前)	※ 時刻は予定であり、交通事情等により前後する場合があります。 ※ 岩手山青少年交流の家に宿泊の方は、施設で朝食をとる時間の余裕がありませんので、バス乗車時に朝食用弁当をお配りします。 ※ 花巻空港で降車の方は、乗車時にあらかじめ岩手県立大学スタッフにお申し出ください。 岩手県立大学スタッフの緊急連絡先 1号車：福嶋洋子 090-2276-7814 2号車：関屋一博 090-6250-4883
7:00	出発 (岩手山青少年交流の家)	
7:50	盛岡市「ホテルニューカーリーナ」前到着	
8:00	学長会議出席者 (1号車) と合流し出発	
9:15~9:30	休憩 (宮古市川井「道の駅 やまびこ館」)	
10:40~10:45	休憩 (宮古市役所田老支所)	
10:45~11:45	宮古市田老防潮堤~田老観光ホテル視察	
12:15~13:00	昼食 (宮古市「ホテル沢田屋」)、宮古市長講演	
13:00	宮古市出発、山田町及び大槌町視察 (車窓)	
15:00~15:05	休憩 (シープラザ釜石)	
15:50~16:05	休憩 (遠野市「道の駅 風の丘」)	
16:45~16:50	花巻空港到着 (降車する方がいる場合)	
18:00	盛岡駅到着	
18:10	ホテルニューカーリーナ到着・解散	



9. (付録) 公立大学学生ネットワーク支援に関する作業部会について

委員

	所 属	氏 名	専 門 分 野 等
主 査	岩 手 県 立 大 学 高 等 教 育 推 進 セ ン タ ー 長	佐 々 木 民 夫	日 本 文 学
委 員	宮 城 大 学 学 生 部 長 事 業 構 想 学 部 教 授	徳 永 幸 之	交 通 計 画、地 域 計 画、 社 会 シ ス テ ム 論
〃	静 岡 県 立 大 学 副 学 長	奥 直 人	薬 学
〃	大 阪 府 立 大 学 副 学 長 学 生 セ ン タ ー 長	竹 内 正 吉	獣 医 薬 理 学
〃	大 阪 市 立 大 学 副 学 長	宮 野 道 雄	居 住 安 全 人 間 工 学
〃	兵 庫 県 立 大 学 教 授	森 永 速 男	考 古 科 学
〃	北 九 州 市 立 大 学 教 授	田 部 井 世 志 子	英 文 学
〃	公 立 大 学 協 会 事 務 局 長	中 田 晃	

※ 委員は必要に応じ、委員長指名により追加する。

10. (付録) 学生セッション

10.1. 1日目

○全体顔合わせ【35分】 9:55～10:30

あいさつ・大会主旨説明・作業部会先生方のご紹介【10分】

チーム分け・自己紹介・アイスブレイク【25分】

○ワークショップ(以下、WS)への準備【70分】 10:30～11:40

WS概要説明【5分】(WSルール説明:日野浦)

1. 話し合いは「みんなの意見を『聴く』機会と捉える
2. 他の人の意見を軽く扱ったり、否定したりしない、肯定し、話し合いの内容を必ず「活かす」ことを約束する
3. 大いに語る

大テーマの提示「学生が考える地域の未来」*宿題で持ち寄る

ブレインストーミング(チーム単位)【5分】(ポストイット5枚/人ピックアップして貼付ける、回りながら他人の意見チェック&立ちながらカテゴリ分けをする)【5分】

中テーマ(分けたカテゴリから一つあるいは二つをまとめ、選択[対象・範囲を決める])の選定(チーム単位)【5分】

小テーマの選定(チーム単位)「こんなプロジェクト楽しいな」【15分】

プロジェクトタイトル決定(チーム単位)【15分】

二枚目の模造紙の上部へタイトルと説明を書き込む

プロジェクトタイトル発表(14チーム全体で)【10分】

ポスター発表への導入【一言】(模造紙にプロジェクトタイトル&説明記入済、WS本番までにプロジェクトタイトル&説明をまとめ、印刷し、配布)担当:スタッフ

学長へのアピール 11:30 司会と数名のみ 他参加者は移動

○昼食【40分】

○ポスターセッション【40分】 12:20～

○WS本番【100分】 13:00～

WS説明・準備【10分】

各チームのプロジェクトに対して生かせる強み・こうしたらできる等の(アイデア)出し(全員で)【20分】

アクションプラン決定(チーム単位)【40分】(5W1H or アイデア止まりでも良いのでアクションプランとしてまとめる)

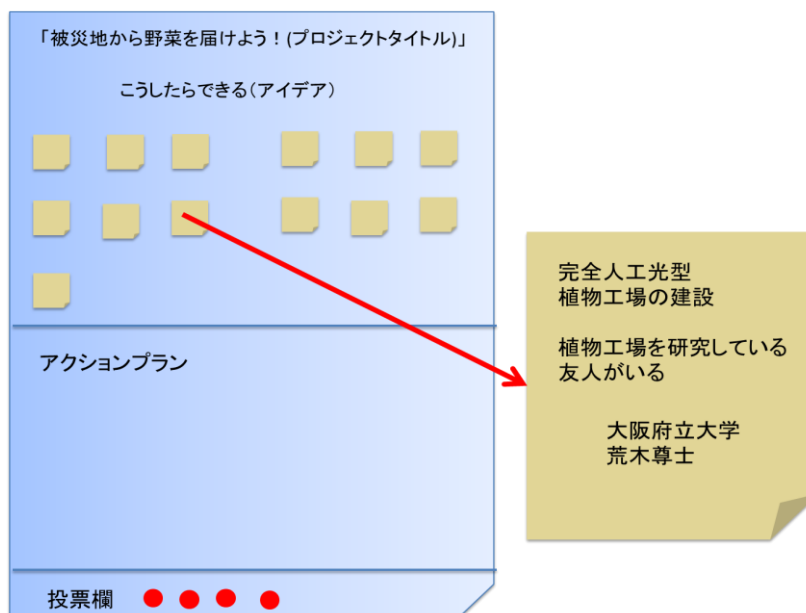
アクションプラン発表：1分/チーム、シール配布 担当：スタッフ

シールで投票→シンポジウムでの発表チーム決定

(5チーム) [25分]

クロージング [5分]

発表準備 (発表グループのみ・他移動) (WS で用いた模造紙の写真をスクリーンに映す、実物を貼る or 持つ) [10分]



図：ワークショップでの模造紙の使い方

○合同シンポジウム【120分 (学生パート30分)】

オープニング【3分】：シンポジウム開催までの経緯、ワークショップ内容

学生発表【4分×5チーム】：発表&コメント(教職員)

コメント【4分】：コメント(WS参加学生、教職員[参加者・作業部会の先生])

クロージング【3分】：WS本番クロージング、地域に帰ってからのアクション

○情報交換会【120分】

地区別にわける[60分]

自由 [60分]

○宿泊先へ

◎WSの目的・狙い

学生のまなざしを生かした垣根の無い協働が、課題解決への可能性を持つことを実感する。

*作業部会の先生方には、うまくテーマを設定できるよう、考えあぐねているチームにはフォローを頂いた。プロジェクトタイトルに対して、強みやアイデア出しのフェーズでは課題解決のための作業を学生と共に行っていただいた。

10.2. 2日目

○WS【180分】

1日目のアクションプランを深める（より具体的に、地域に帰って実行できるように）

チームを A/B 二つにわけ、片方のチームずつ、自分の興味のあるプロジェクトチームへ遠征し、その場でアイデアを出し合う【30分】

元のチームで共有【10分】

本大会を振り返り、お互いの感想を聞き合う【20分】

チーム毎に「ネットワークをどうやったら活かせるか」話し合い、発表【30分】

全国シンポジウム開催までの流れ、COC、地域に帰ってからのアクションについて説明【10分】

公立大学学生ネットワーク・被災地支援地域防災ネットワークの再構築

幹部への立候補と、その後の情報受け入れ意志確認

ポスター発表の続き

総括ムービーの上映【10分】

写真撮影・帰宅準備【10分】

11. (付録) アクションプランタイトル及び概要

グループ	アクションプランタイトル	概要
1	U・P GO GO PROJECT	大学を地域に向け開放し、公園のよう (University Park) に子どもからお年寄りまでが集える場所とする。
2	このまちおせっかいいネ	大学生主催の持ち寄り食事会などを開催し、おせっかいなほど、地域住民がお互いに助け合える地域作りをする。
3	つながりごはん	地域の方に郷土料理、自慢の手料理を大学に持参してもらい、大学生と一緒に食事会をする。
4	まちは僕らの庭プロジェクト	子どもたちが通学路スタンプラリーなどの企画により、地域住民との交流を通じ町の魅力を知り、郷土愛を深める。
5	地域磯野家化	大学生、中高生が町歩きスタンプラリー企画を行ない、漫画「サザエさん」のように町全体が顔見知りのネットワークを作る。
6	鷹の爪田吉田町 まちおこし計画	島根県吉田町のまちおこしのために、大学生主催の音楽祭を開催する。
7	学生×地域 フェスティバルツアー	各都道府県に特別な日を設け、地域の祭と大学祭を融合させた祭を開催し、大学と地域の結びつきを強める。
8	"女子力"でおもてなし	学生がきっかけとなって地域内外に向けた"おもてなし精神"を活用することで、コミュニティ力活性化を図り、皆が住みよい社会形成を目指す。
9	おなかまプロジェクト	大学生と地域住民が避難所で郷土料理の食事会を行ない、非常時に支え合える人間関係を育む。
10	CCY (Create Community with Young)	大学生が近世代交流会(テーマ: 育児、退職後の生活)を開催し、各世代の長所を共有する機会を設ける。
11	学生による地域祭	大学生が地域祭を開催し、大学で学んだことを、体験型企画を通して地域住民に知ってもらう。
12	"わわわ"コネクション	大学生が大学での学びを活かした企画を行ない、地域で「わ」を育む。
13	I プロ	場所づくり、人づくり、自己実現ができる町にする。
14	福祉をぎゅっ	福祉を学ぶ大学生が子育て支援、高齢者訪問、防災意識啓発活動を行ない、地域住民が月に一度集まれるイベントを開催する。

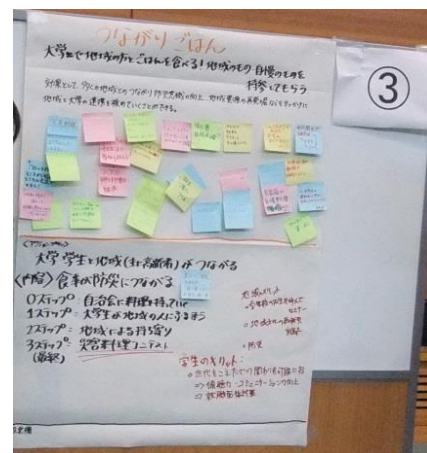
12. (付録) アクションプラン写真



グループ1



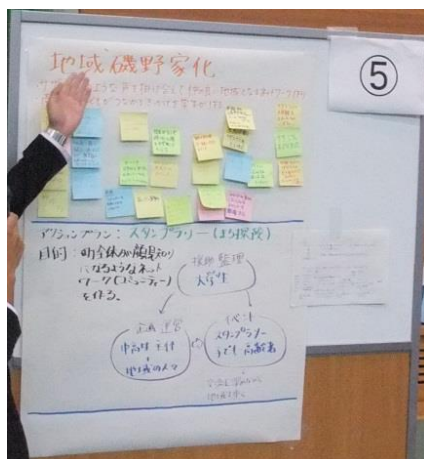
グループ2



グループ3



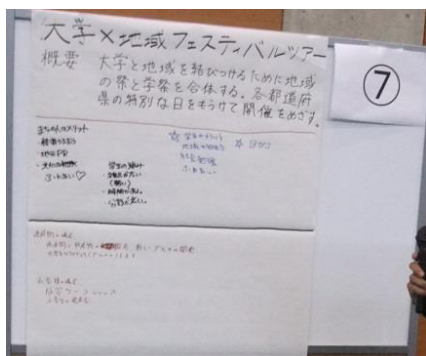
グループ4



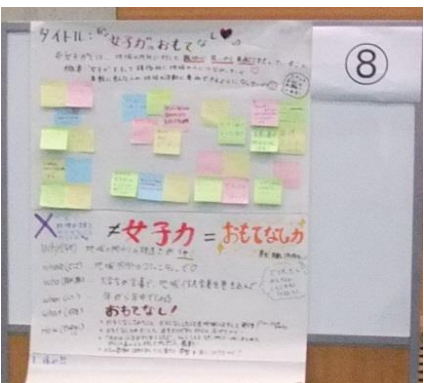
グループ5



グループ6



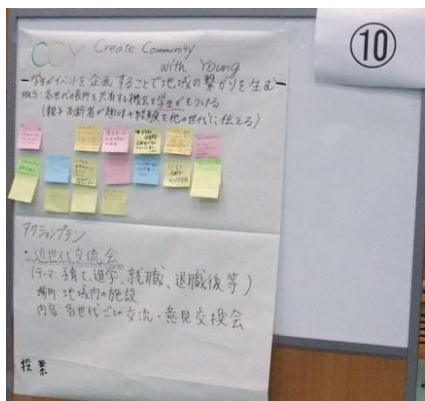
グループ7



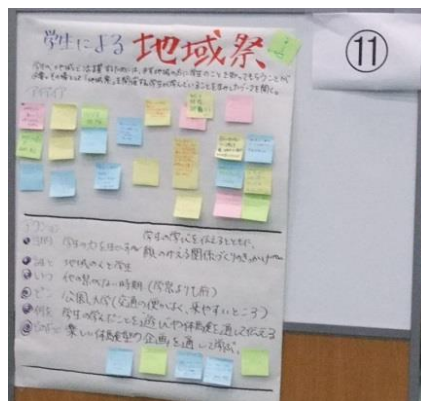
グループ8



グループ9



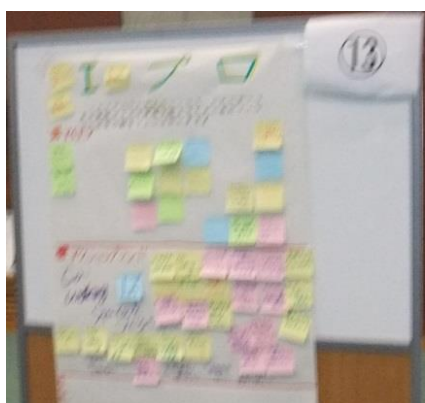
グループ10



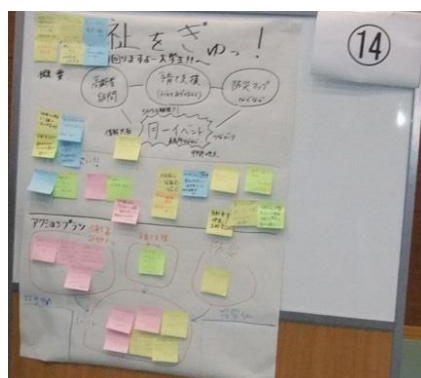
グループ 11



グループ12



グループ13



グループ 14

13. (付録) 合同シンポジウム発表グループのアクションプラン詳細

13.1. グループ 1 : U・P GO GO PROJECT

大学を地域に向け開放し、公園のよう(University Park)に子どもからお年寄りまでが集える場所とすることを目的とする。移動式コンテナを用い、大学生が運営に関わる日替わり企画(おばあちゃんカフェ、学童図書館、みんなの Bar)を行う。

13.2. グループ 4 : まちは僕らの庭プロジェクト

子どもたちが地域住民との交流を通じ町の魅力を知り、郷土愛を深めることを目的とする。平日は通学路スタンプラリーを行ない、商店、老人ホームでは出題されるクイズやお願い(折り紙、歌、花壇の水やり)に取り組む。休日は町内ドッジボール、平日の情報を活かした町内フォトラリー、町内ウォークを行う。大学生は企画、運営を行う。

13.3. グループ 9 : おなかまプロジェクト

地域住民と大学生が同じ釜(かま)のご飯をおなかいっぱい食べ、非常時に支え合える関係を築くことを目的とする。春夏秋冬の年四回、公園、小学校、公民館などの避難所で郷土料理を一緒に作り、食べる。広報手段として回覧板、大学生から口伝え、SNSを用い、幅広い年代の参加を狙う。

13.4. グループ 11 : 学生による地域祭

地域住民と大学生が地域祭を開催し、大学生の力を活かし、大学生の学びを地域住民に伝えるとともに、地域で顔の見える関係を作ることを目的とする。他の祭りが無い時期(大学祭時期(11月)よりも前)に公園や大学など交通の便の良い所で、地域祭を開催する。楽しい体験型の企画を通して、大学生が学んだことを伝える。

14. (付録) 公立大学学生ネットワークの新幹部 (平成26年度)

※ Web掲載版では省略

15. (付録) 公立大学学生ネットワークの今後の動き

15.1. 情報共有方法

Facebook ページの開設 (10月17日開設済み)

学生大会で作成したアクションプランや、出会った他大学の学生との協働、他大学のポスターセッションからヒントを得て動き出した活動などを誰でも発信できるようにし、活動ノウハウの共有や情報交換を活性化し、ネットワークとしての結びつきと可能性を高める。

HPの整備

各大学のHPへのリンクをお願いする。(食事会でもお願いした事項)

引き続き、今後の活動を発信する。(主に幹部によるもの)

ML (メーリングリスト) 作成

本大会二日目に、今後の公立大学学生ネットワークからの情報が必要かどうか確認を行い、名簿に意志を記入してもらっている。

→情報が必要と答えた参加者からは、公立大学協会から公立大学学生ネットワーク (代表) へのメールアドレス開示許可を得ている。

15.2. 学内 LINK topos の開催促進

概要

各公立大学学内にて学生・職員・教員・地域の主体 (住民・企業・NPO) が地域や大学の課題について話し合える場 (学内 LINK topos) の開催を各大学に促す。(参加者からの提案)

15.3. LINK topos を応援する会 (OBOG 会) の設立

概要

LINK topos 参加者は、学生の垣根のない協働を実感し、本大会の有意性を強く認識している。この大切な経験を、少しでも多くの後輩に与えるため、公立大学学生ネットワークによる LINK topos 開催を金銭面、情報面 (拡散と提供)、人的ネットワーク面からサポートする。

15.4. 口座開設

理由・用途

公立大学学生ネットワーク内に LINK topos を応援する会 (OBOG 会) の会費のための口座を開設する。公立大学学生ネットワークは、経理部門を設け、監査役として公立大学学生ネットワークを支援する作業部会のどなたかにお引き受け願う。(年一度の会計監査・会計報告を行う) 資金の用途は、LINK topos の運営費とする。